

デフレーションとインフレーションと外国為替及び外国貿易の係に 関する一考察

株式会社英文法令社
代表取締役 佐藤 賢一

デフレーションとは物の値段が下がることですが、これは逆に言うと貨幣価値が上がることです。易しく説明すると、100円もっていて物の値段がさがって80円になると100円の価値が上がってしまうことです。これを外国為替と関連させて考えると、デフレーションは円高（円の価値が上がること）をまねきます。

また、一方でインフレーションは物の値段が上がることですが、これを逆に言うと貨幣価値が下がることです。易しく説明すると、100円もっていて物の値段が上がって120円になると100円の価値が下がってしまうことです。これを外国為替と関連させて考えると、インフレーションは円安（円の価値が下がること）をまねきます。

さらに、輸入（Import）と輸出（Export）に絡めて考えると、円高は貨幣価値が上がるので輸入することが楽になります。その反面、円高は貨幣価値が上がるので輸出が辛くなります。反対に円安は貨幣価値が下がるので輸入することが辛くなります。その反面、円安は貨幣価値が下がるので輸出することが楽になります。

本日（平成24年5月24日午後3時頃）の円とドルとユーロは、実際に幾らになっているのでしょうか。日本経済新聞のウェブサイトを見ると、1ドルは79円48銭から52銭、1ユーロは99円93銭から98銭で取引されています。金融機関で外国為替取引を仕事にしている人たち（機関投資家）は、貨幣を安く買って高く売って利益をあげようとおもっていますが、外国為替取引は世界中で24時間取引されているので、為替ディーラーは市場（マーケット）が気になって夜に眠れない人もいます。

資源のない日本の民間企業は原材料を外国から輸入してそれを加工して製品にして外国へ輸出して利益をあげているので（加工貿易）、過度な円高は輸出が辛いです。（外国での日本製品の値段が高くてあまり売れない上に、円高は反面ドル安とユーロ安ですが、その製品の利益を日本円として回収しようと思った

ときに、ドルとユーロを売って円を買わなければいけないので、円高だと貨幣価値が高くて製品の利益があまり沢山は戻ってきません。)円高だと輸入が楽だと申し上げましたが、外国製品が安く手に入るという(基本的には)良い部分もあります。「基本的には」と述べたのは、過度な円高は日本企業(特に製造業)が生産拠点を人件費等の安い国へ移してしまっているのです、made in Japan が少なくなると、日本国内の産業が空洞化(いなくなってしまうこと)してしまいます。日本国内では、公共事業しか産業のない県もあります。

当たり前のことを簡単に説明しましたが、皆さんご理解いただけたでしょうか。読んで頂いてありがとうございました。

以上

平成24年5月24日

さとう・けんいち

昭和61年(第37期)高等学院卒

平成3年政治経済学部経済学科卒

早稲田大学高等学院ラグビー部出身